

個人投資家向け会社説明会

2023年5月27日

フィンテック グローバル株式会社

(東京証券取引所 スタンダード市場 : 8789)

<https://www.fgi.co.jp/>

会社概要 業績・株価推移 P 2

FGIの事業 P 7

- 1 投資銀行業務
- 2 投資業務
- 3 投資運用業務
- 4 公共コンサルティング

業績 P26

2022年9月期 連結業績概況
セグメント別業績
投資銀行事業セグメント 業務別収益

今後の見通し P30

2023年9月期 連結業績予想
配当予想

参考資料 P34

2023年9月期第2四半期 連結財務諸表

会社概要 業績・株価推移

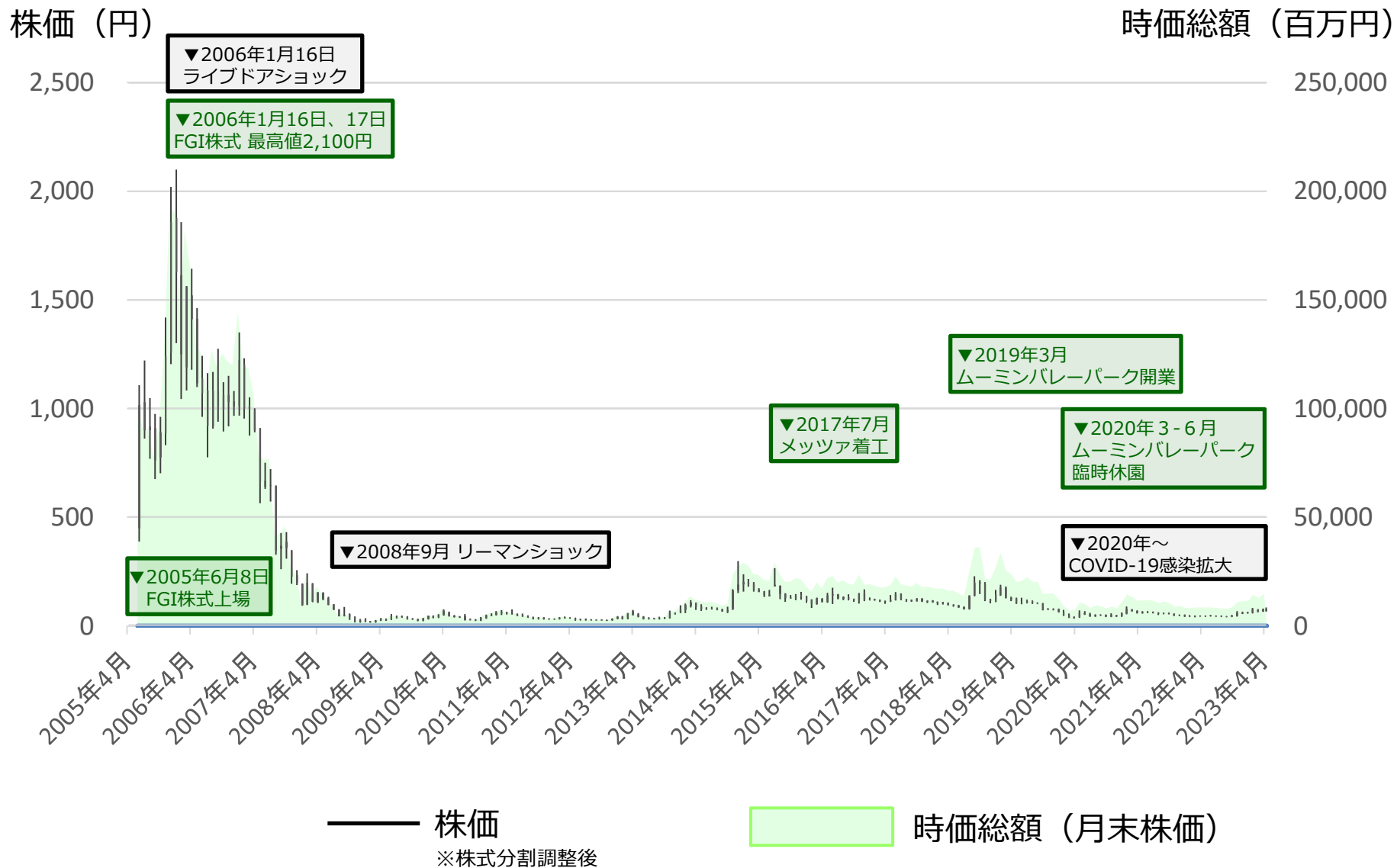
会社概要

商号	フィンテック グローバル株式会社
本社	東京都品川区上大崎3-1-1 目黒セントラルスクエア15階
設立 年月日	1994年12月7日
代表者	代表取締役社長 玉井 信光
証券 コード	東証スタンダード市場 (8789)
上場年月	2005年6月 東証マザーズ上場 2021年2月 東証第二部に市場変更 2022年4月 東証スタンダード市場に移行
事業内容	①投資銀行業務 ②投資業務 ③投資運用業務 ④地域課題ソリューション
連結 従業員数	150名 (2023年3月31日現在、臨時従業員含まず)



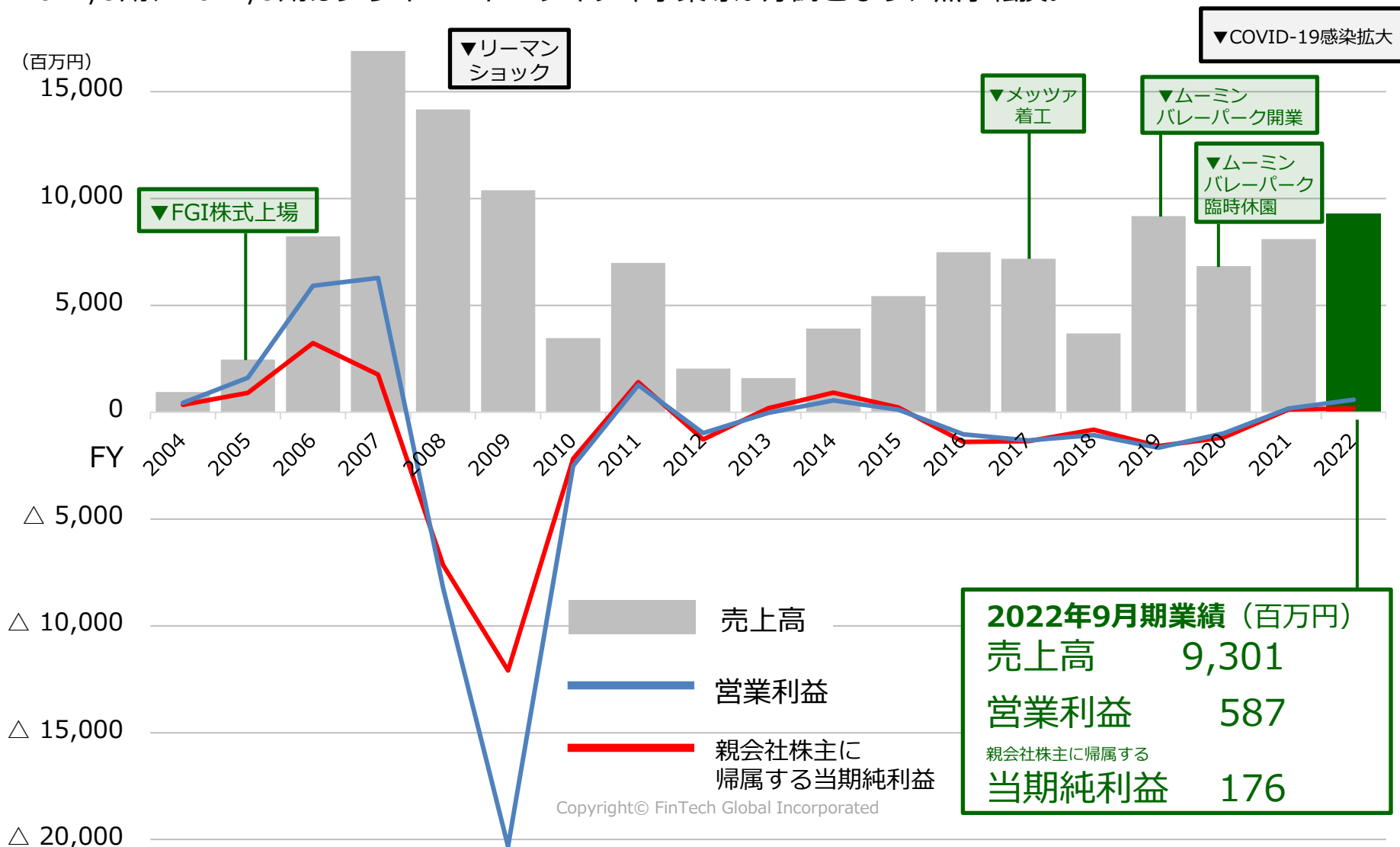
フィンテック / FinTech (登録5113746)・FinTech Global (登録5811521)・フィンテックグローバル (登録5811522)・FGI (登録5113748)は、フィンテック グローバル株式会社の登録商標です。

株価、時価総額の推移 [2005年6月～2023年4月]

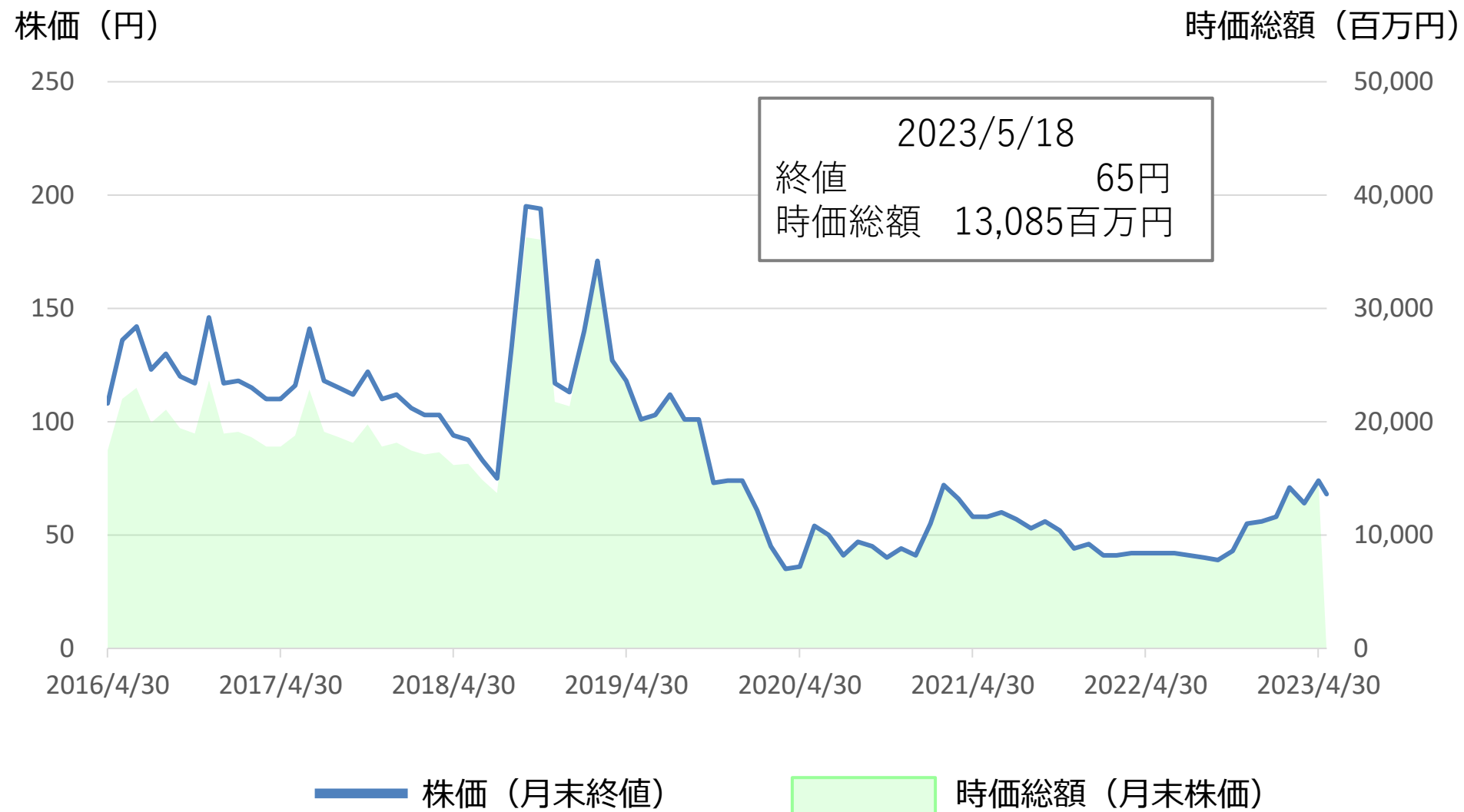


連結業績推移 [FY2004～FY2022]

2016～2020/9期はメッツァ開業準備費用やコロナ禍により損失計上が続いたが、2021/9期、2022/9期はプライベートエクイティ事業等が好調となり、黒字転換。



株価、時価総額の推移 [2016年4月～2023年5月]



フィンテック グローバル (FGI) の事業

- 1 投資銀行業務
- 2 投資業務
- 3 投資運用業務
- 4 公共コンサルティング

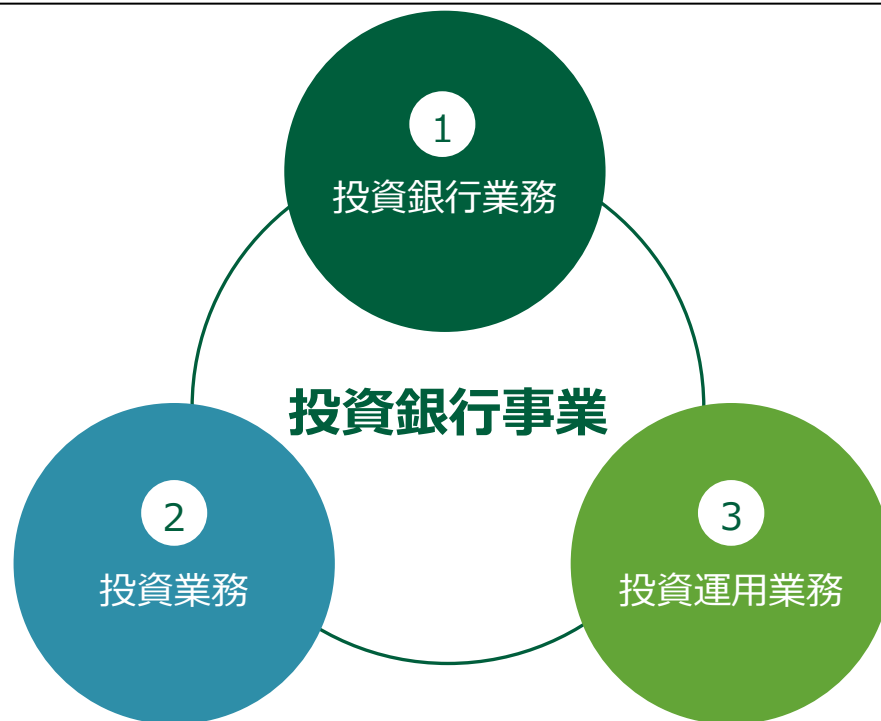
FGIの事業

**フィンテック グローバルは、
先端的・革新的なファイナンス・ソリューションを提供するブティック型投資銀行*として、
顧客の課題解決に貢献しています。**

*大規模で広範な事業を展開する大手投資銀行の業務の一部を、小規模かつ専門的に展開する投資銀行を「ブティック型投資銀行」といいます。

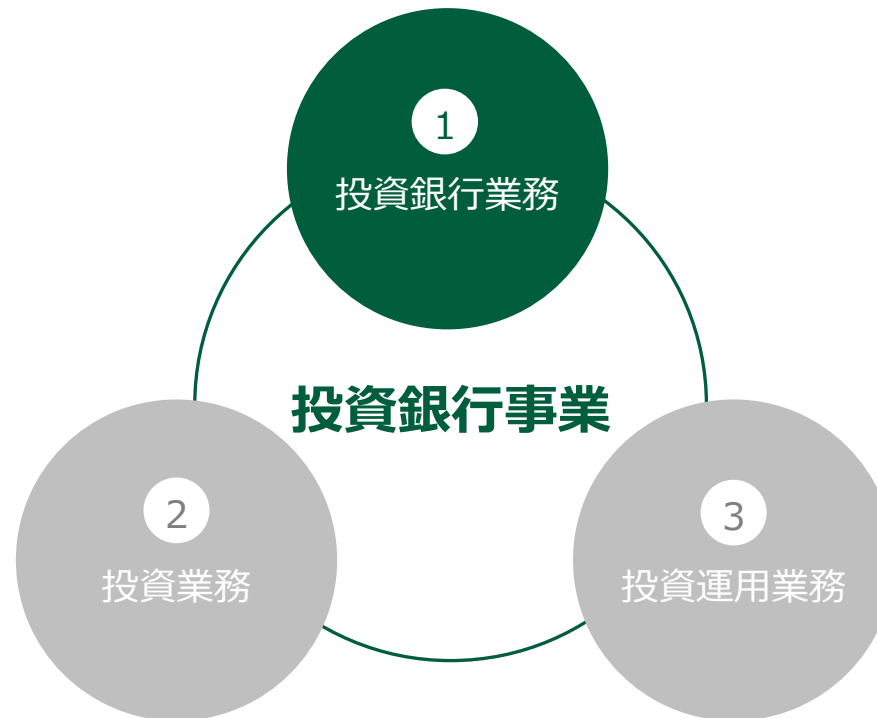
ファイナンスアレンジなどを提供する投資銀行業務から始まったFGIの業務は、多様な顧客ニーズにお応えするために投資業務、投資運用業務に広がっています。

そして、これらのノウハウを活用した事業承継支援や地域産業の振興に加え、地方公共団体の財政健全化に向けた財務書類作成支援や公共施設マネジメント支援など、地域の課題解決に貢献するソリューションを提供しています。

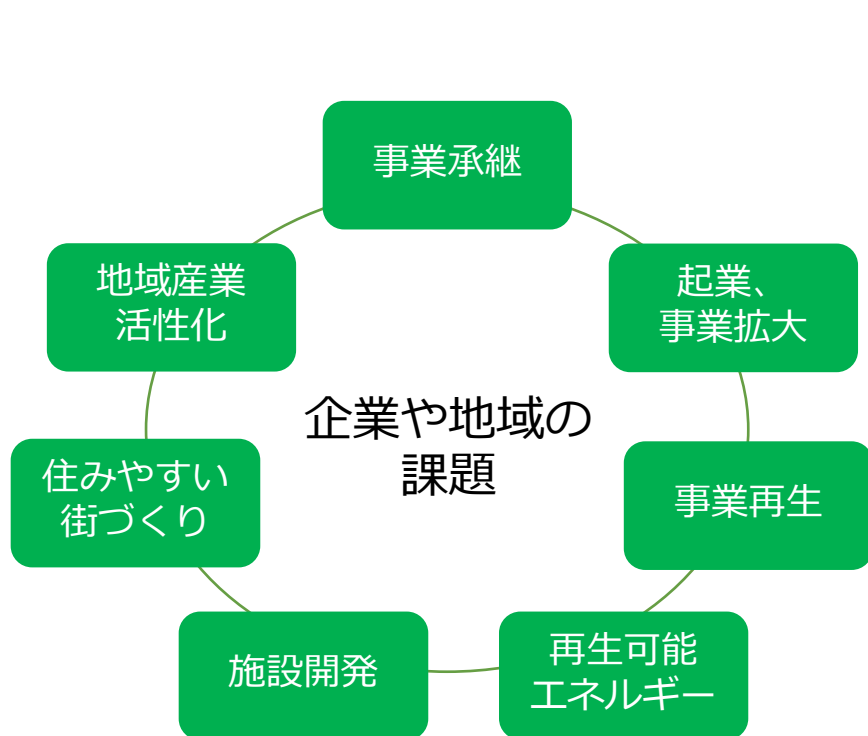


FGIの投資銀行業務

ファイナンスアレンジや財務アドバイザリーにより資金調達を支援し、
顧客の戦略的目標の達成に貢献しています。



企業や地域の様々な課題に、ファイナンスからアプローチ
課題解決のために、最適な財務戦略を企画・提案
資金調達などを支援して、顧客の戦略的目標の達成に貢献



投資銀行業務

- ・ファイナンス・アレンジ
- ・ファイナンシャル・アドバイザー
- ・プロジェクト計画の策定、実施
- ・各種デューデリジェンス
- ・ストラクチャリング（仕組み策定）
- ・リスク分析、分解
- ・法的・会計的・税務的検証
- ・収益性分析
- ・ファンド組成
- ・金融機関・投資家等招聘
- ・契約書等のドキュメンテーション

FGIグループの不動産証券化アレンジメントの資金調達累計額は、**9,148億円**
(2023年3月末時点)

プロジェクト支援



地域社会の持続可能性を高めるプロジェクトをファイナンスを通じて支援しています。

札幌サ高住プロジェクト

(豊平区 2014～2018年) (西区 2015～2018年)
(中央区 2015～2018年) (西区 2015～2020年)
(北区 2016～2022年) (豊平区 2017～2020年)
(白石区 2017～2020年)



サービス付高齢者向け住宅の開発や取得のファイナンスアレンジ、アセットマネジメントを受託。



鶴岡プロジェクト

(山形県鶴岡市、2017年～)
ホテル等の大規模改修のためのファイナンスをアレンジ。アセットマネジメントを受託。



稚内駅ビルプロジェクト

(北海道稚内市、2015年～)



再開業された複合施設を保有する特別目的会社について、従来スキームの課題解決のため、不動産特定共同事業法に基づくスキームへの変更をアレンジ。アセットマネジメントを継続。

米子番号館プロジェクト

(鳥取県米子市、2014年～2022年)

従来スキームの課題解決のため、不動産特定共同事業法に基づくスキームへの変更をアレンジ。アセットマネジメントを受託。



寺宿プロジェクト

(栃木県大田原市、2014年～2015年)
太陽光発電施設の開発資金をアレンジ。



広野プロジェクト

(福島県双葉郡広野町、2020年～)

福島原発の作業員宿舎として利用されるホテル・広野ゲートウェイを保有する特別目的会社のアセットマネジメントを受託。



榊崎町プロジェクト

(栃木県足利市、2015年)

太陽光発電施設の開発資金をアレンジ。



(株)美作国電力の設立支援、出資

(岡山県津山市、2018年～)

地域新電力会社設立等のコンサルティングを行い、岡山県美作国地域の企業とともに共同出資。



阿波ソーラープロジェクト

(徳島県阿波市等 2014年)

コンサルタント会社、金融機関と協働して、太陽光発電事業に資金拠出する市民ファンド組成をアレンジ。



富士屋旅館プロジェクト

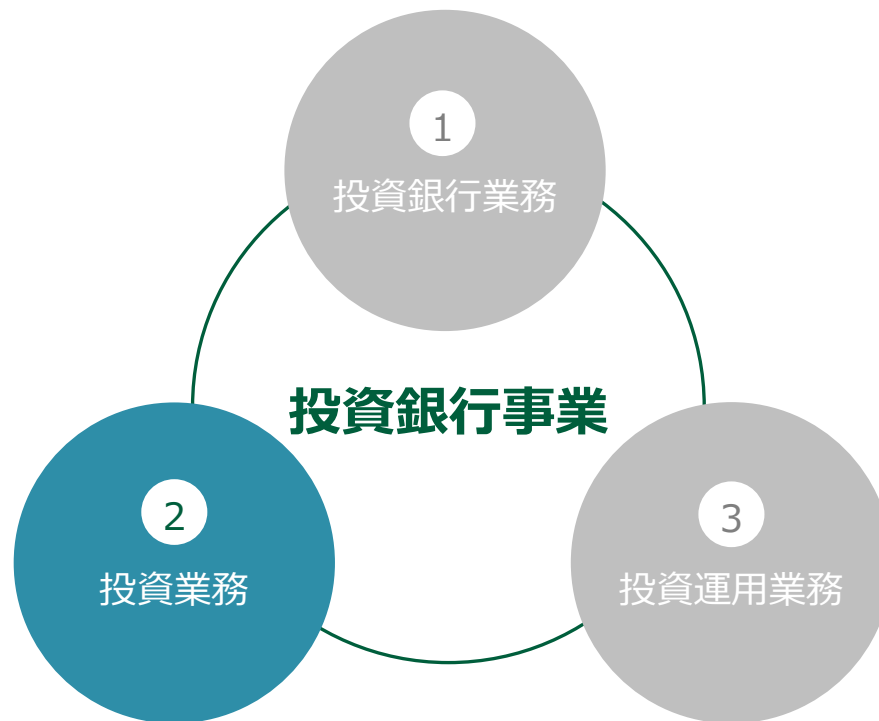
(神奈川県足柄下郡湯河原町、2019年～)

営業休止していた歴史的建造物の老舗旅館のアセットマネジメントを受託。リノベーションを実施し、営業再開。



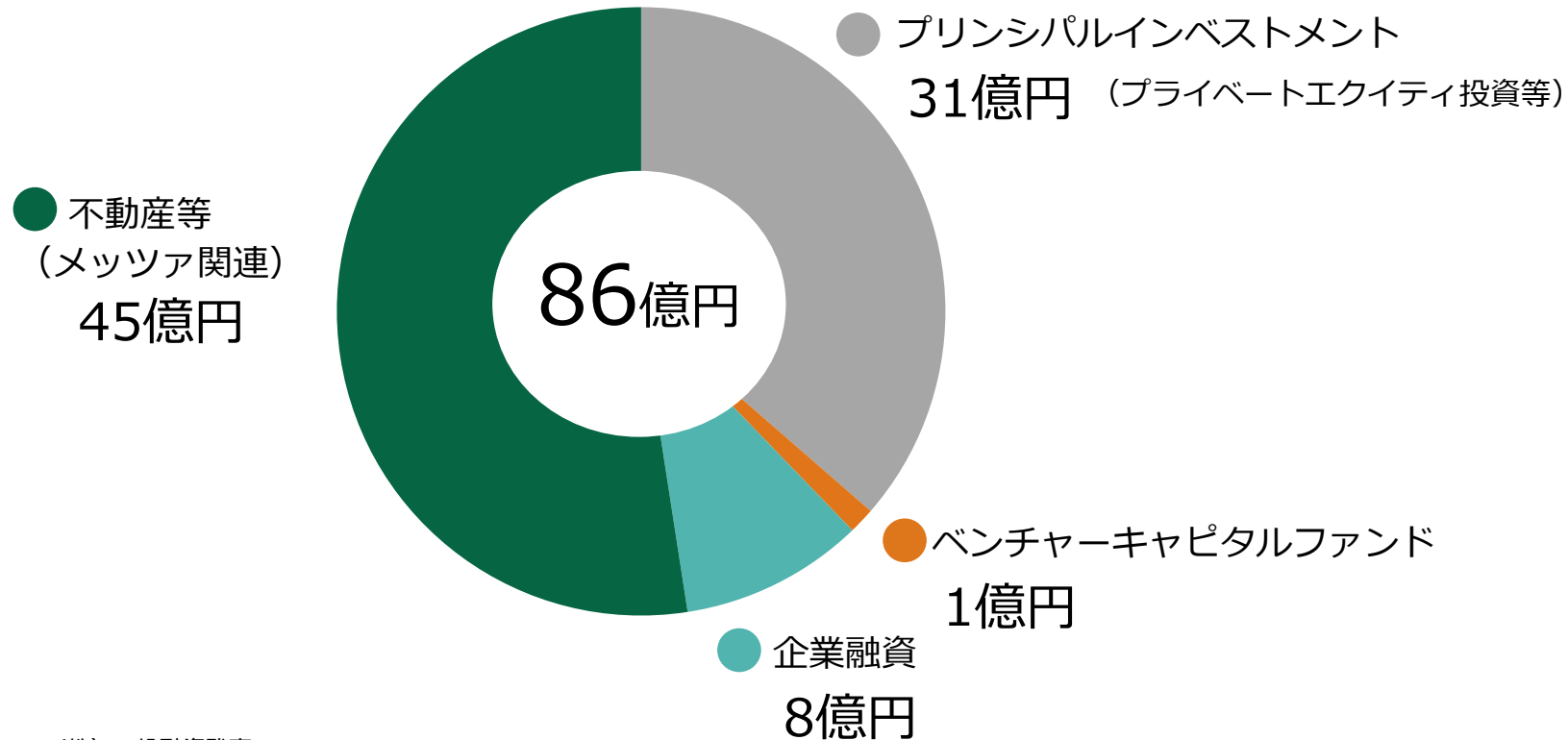
FGIの投資業務

プライベートエクイティやこれに関連する各種サービスの提供を通じて、
資金を必要とするプロジェクトや組織と投資家を結びつけています



事業承継の課題を抱える企業や、スタートアップ企業、
不動産プロジェクトなどに投資し、価値向上に貢献しています。

投融資残高（2023年3月末現在）



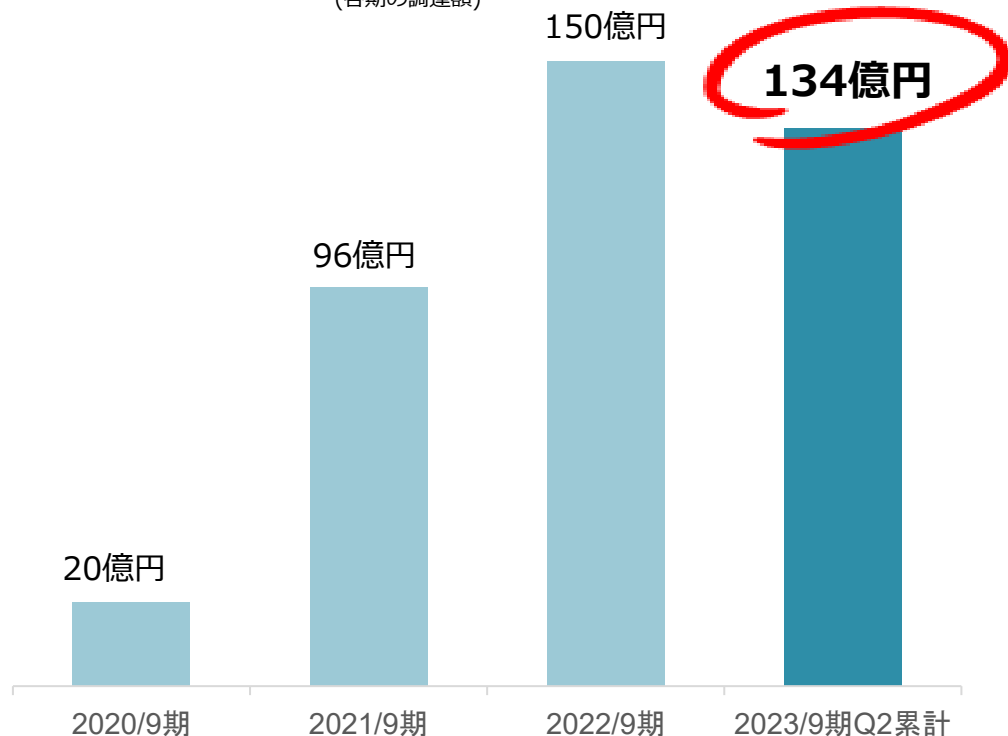
FGI、aviner(株)の投融資残高
子会社への出資、貸付を含むが、上記の各会社間の出資、貸付は含まず。

事業承継投資

- ・事業承継問題を抱える企業に対し、投資や財務アドバイザーなど様々なソリューションを提供。
- ・各案件には、当社出資及び金融機関のローン等により案件毎に組成した買収ファンド（非連結）を通じて投資。
- ・当該ファンドによる対象案件への投資額は、年々増加。
- ・金融機関等からの案件紹介は継続しており、今後も案件組成と新規投資が続く見込み。

買収ファンド組成額

(各期の調達額)



2023年9月期Q2累計は

前期通期実績の**89%**まで進捗

案件増加の要因

- 案件ソーシングのためのネットワーク拡大
金融機関、M&A仲介会社、会計事務所等へ
FGIグループの取り組みについての認知が広まり、
紹介案件の情報量が増加
- 案件組成ノウハウの蓄積と効率化
投資先企業のデューデリジェンス等のノウハウが蓄積。
定型化による効率化も進む。
- 人員拡大
案件組成や案件管理の人員拡大。

スタートアップ企業等への投資

FGIグループの代表的な投資先企業を紹介します。

プライム・ストラテジー (株)



超高速CMS実行環境「KUSANAGI」を中心とする「KUSANAGI Stack」を開発、提供するクラウドインテグレータ

ギグベース(株)



シェアリングエコノミー
ジョブマッチングプラットフォーム運営

(株)ムーミン物語 (連結子会社)



ムーミン・テーマパークの運営

MDT INNOVATIONS Sdn Bhd



マレーシアのRFIDタグ・リーダーの世界トップ5のメーカー

(株)アダコテック



産総研特許技術をコアに製造業
・社会インフラ向けAIサービスを提供

(株)美作国電力



「地域で生まれたエネルギーを地域で消費する仕組みを創る」ことを目的として2018年設立。

(株)FUNDINNO



株式投資型クラウドファンディング
「FUNDINNO (ファンディーノ)」
の運営

(株)Mealthy



特定保険指導や健康経営のサポート
事業

(株)Flatt Security



サイバーセキュリティ事業

メツァにおける投資

FGIは、メツァビレッジへのアセット投資と、ムーミンバレーパークを運営する(株)ムーミン物語とその関連会社(株)ライツ・アンド・ブランドへのプライベートエクイティ投資を行っています。



FGIは、北欧のライフスタイルを体験できるメツァビレッジをアセット投資として、保有・賃貸し、価値向上に取り組んでいます。



レストラン棟



FGIの子会社(株)ムーミン物語が、ムーミンバレーパークを運営しています。



ムーミン谷エリア

© Moomin Characters ™

ムーミンバレーパーク 施設紹介（一部）

展示施設 コケムス (KOKEMUS)



- ✓ コケムスは、フィンランド語で「体験」を意味する、地上3階建ての展示施設。インタラクティブな体感展示スペース、常設展や企画展などが楽しめる。
- ✓ 大型のムーミンショップや、ムーミンたちの夜の森のパーティーをイメージしたレストランも設置。

ムーミン屋敷



海のオーケストラ号



リトルミイのプレイスポット



メッツァのアフターコロナの経営戦略

レジャーやアミューズメント需要の本格的な回復を捉え、収益力を向上

メッツァビレッジ



北欧を感じる豊かな自然を活かした
アクティビティや体験、おいしさを提供

メッツァ駐車場料金の改定（4/1）

- ・平日の駐車場料金を有料化

アウトドア事業の強化

- ・BBQテラスを開始（4/29）

イベントの強化

- ・自然を活かしたイベント
- ・地域の産品を紹介するマーケット
- ・ペットと楽しめるドックラン

テナント戦略の見直し

- ・賃料体系の見直し
- ・テナントの一部見直し

ムーミンバレーパーク



『「北欧のブランド、ムーミン」を通して
Well-beingを体感できるパーク』へ改革を推進

主なマーケティング戦略

1. 豊かな自然と、「北欧のブランド、ムーミン」の知名度を活かし、他のパーク・施設との差別化を徹底する。
2. RBJと連携し、パーク外の収益力を強化する。
3. 主ターゲットの子どもがいるファミリー層へ向けた改装を実施する。
4. マーケティング業務をRBJと一体化し、PR・CRMを共同運営する。

具体的施策

- ・知育系ワークショップ（ヘムレンズアカデミー）を設立。
- ・全天候型のボーンホルンド監修の「あそび」と学びを共存させる「ムーミン谷のあそびのひろば」を期間限定オープン。今夏以降に第二弾、第三弾の改装を予定。
- ・スポンサーマーケティングの導入、地方自治体と協働したソーシャルマーケティング事業の導入。
- ・チケット価格の改定。

ムーミンバレーパークのイベント

■展示施設「コケムス」のリニューアル

コケムス3階の一部エリアをリニューアルした
「ムーミン谷のあそびのひろば」が期間限定登場(4/28～)

北欧の知育プログラム（ボーネルンド社監修）を導入し、
天候にかかわらず、子どもも親もWell-beingを体験。



海のオーケストラ号のボールプール



ムーミン谷の空のトラック



モランのコロコロホイール

■ムーミン谷とアンブレラ

頭上をカラフルな傘で埋め尽くし、その美しさを楽し
む今年で4回目の恒例イベント。

2023年の新たな試みは、シャボン玉の演出と、トレン
ドのオーロラ素材を使用したアンブレラスカイです。

(4/28～ 7/2)



詳細は公式サイトへ

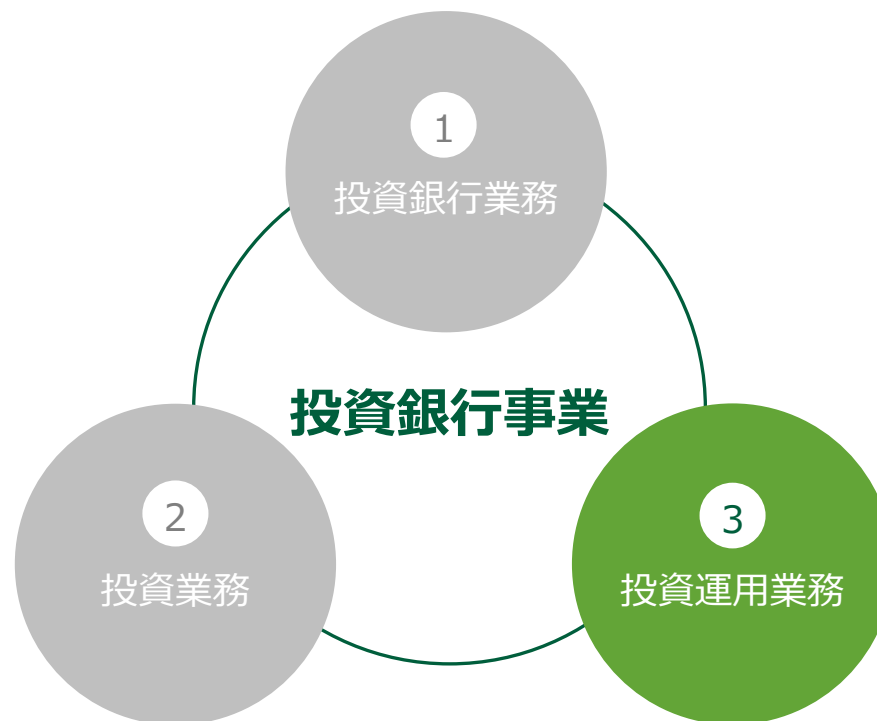
<https://metsa-hanno.com/event/25743/>

詳細は公式サイトへ <https://metsa-hanno.com/event/26023/>

FGIの投資運用業務

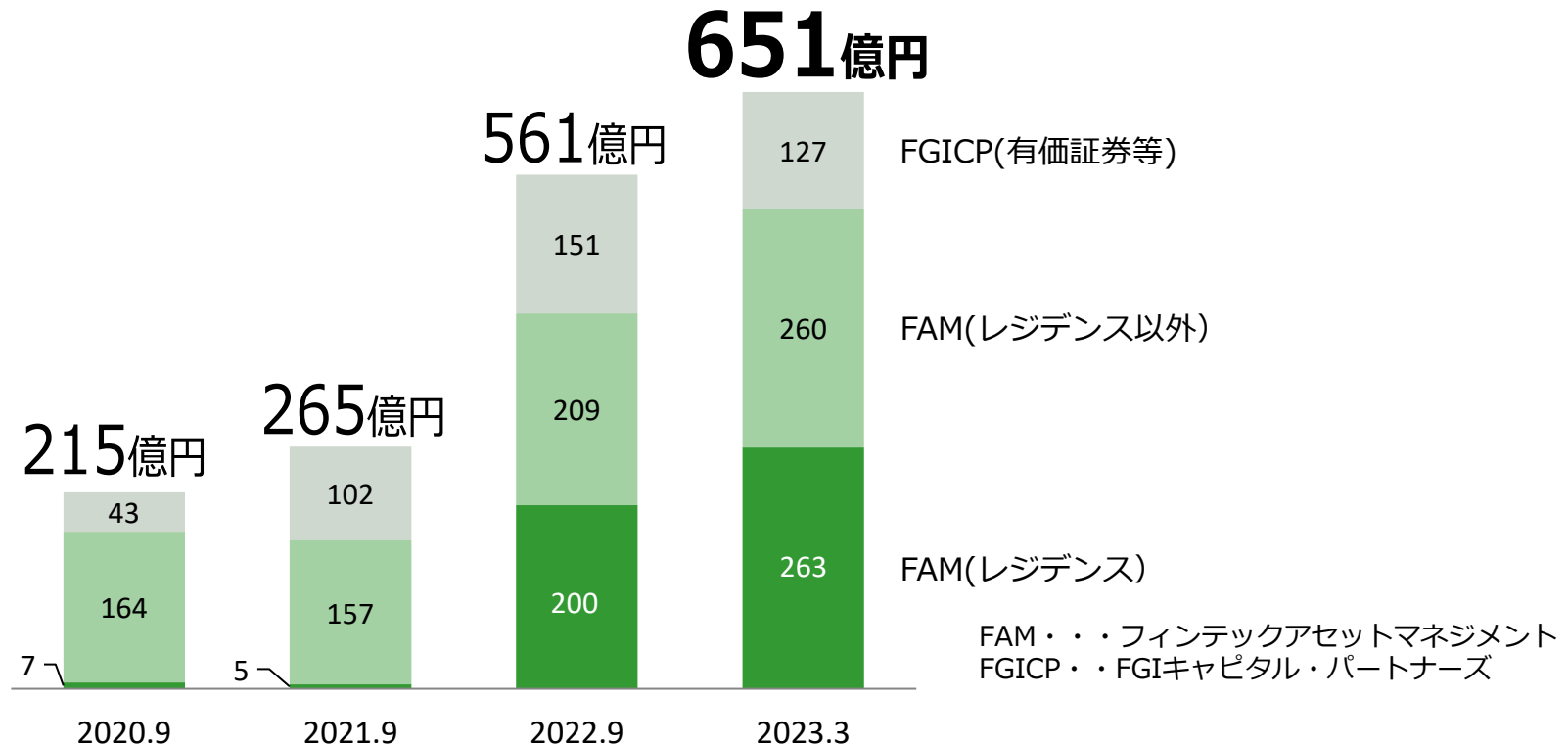
不動産や有価証券等の投資運用サービスを提供しています。

また、将来的な航空機投資運用を視野に入れて航空機技術サービスを提供しています



アセットマネジメント受託資産残高

再生可能エネルギー設備や、海外投資家によるレジデンス・物流施設を投資対象とする運用が増加しています。



航空機アセットマネジメント

- ✓ SGI-Aviation Services B.V. (SGI) は、航空業界の独立系アドバイザーとして航空機・エンジンの管理、技術コンサルティング、アドバイザリーサービスを提供
- ✓ SGIの親会社であるaviner(株)は、グローバルな航空事業経験を持つスペシャリスト集団としてSGIとともに航空ファイナンスサービスを提供

SGI AVIATION

SGI-Aviation Services B.V.

**ac**

aviner(株)

機体管理**エンジンサービス****規制対応****ITサービス****ファイナンス
アレンジ**

- ・資産査定支援、評価
- ・機体・エンジン管理、検査
- ・航空機のリマーケティング

- ・航空機登録
- ・航空機管理ソフトウェア提供
- ・資金調達支援



SGIは、オランダを拠点に顧客ネットワークを構築し、グローバルにビジネスを展開しています。

クライアント所在国

SGI事業所

FGIグループ

投資銀行事業

FGI

フィンテック グローバル(株)
(投資、アレンジ)

FAM

フィンテック
アセットマネジメント(株)
(不動産投資運用、
ファイナンスアレンジ)

FGICP

FGIキャピタル・
パートナーズ(株)
(有価証券等の運用)

ac

aviner(株)
(航空、エネルギー分野の
AM/事業投資)

SGI AVIATION

SGI-Aviation Services B.V.
(航空機アセットマネジメント)

trinity japan

(株)トリニティジャパン ※
(リスク・ヘッジの手配支援)
※2023年3月に連結子会社化

Connecttech

コネクトテック(株)
(不動産開発、売買、仲介等)

公共コンサルティング 事業

Public
Management
Consulting

(株)パブリック・マネジメント
・コンサルティング
(公会計支援、
公共施設マネジメント支援)

geoplan
Namtech

(株)ジオプラン・ナムテック
(インフラ・ユーティリティ等の情
報処理システムの計画、運営等)
〈持分法適用関連会社〉

エンタテインメント・ サービス事業

MOOMIN
monogatari

(株)ムーミン物語
(ムーミンバレーパーク運営)

metsä®

(株)メツア
(メツア運営)

®&® Rights & Brands | Japan

(株)ライツ・アンド・ブランドズ ※
(ムーミン・ライセンス管理)
※2023年9月期Q1に連結除外、
持分法適用関連会社化

FGIの公共コンサルティング

地域社会の持続可能性を高めるプロジェクトや、地方公共団体等の財政健全化の取り組みを支援します。

地方自治体の財源創出サポートを検討

- 人口減による税収減、社会保障負担増加、老朽化する公共施設改修等により、地方自治体の財政は厳しさを増す。
- FGIグループは、これまで地方財政に対して公会計支援や資産活用のコンサルティングによりアプローチしてきたが、地方財政の持続可能性を高めるため、自治体が社会課題を解決しながら財源を創出するアプローチを検討中。

地方財政の持続可能性を高めるアプローチ

連携

L P R C
Local Public-accounting Research Center

一般社団法人
地方公会計研究センター

会計・財政コンサル

(地方公共団体)

- 財務書類作成支援
- 公共施設マネジメント支援
- 資金管理支援

(地方公営企業)

- 公営企業法適用化支援
- 経営戦略作成支援



資産活用コンサル

公共資産活用計画

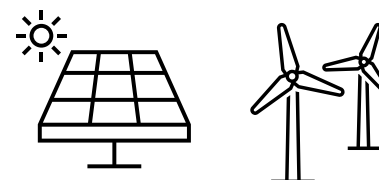
- 事業化支援
- 施設整備計画支援



財源創出（検討中）

「稼ぐ自治体」を支援

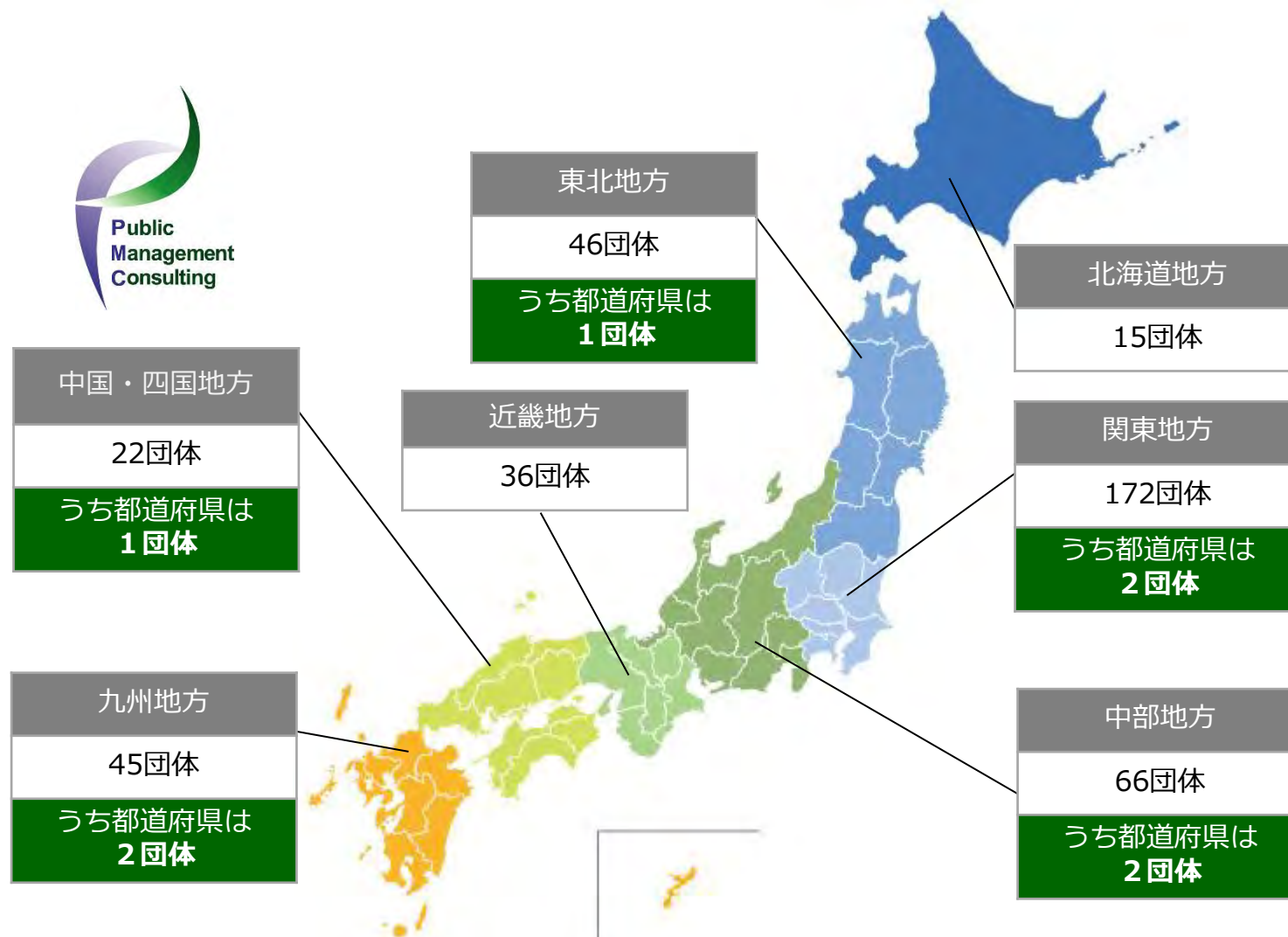
- 再生可能エネルギーによる電気を売電等



地方公共団体等との取引実績は402団体*

*PMCの累計実績（2023年3月末現在）

FGI子会社(株)パブリック・マネジメント・コンサルティング（PMC）は、公会計を中心に、公共施設等総合管理計画の策定・見直しや公営企業会計の支援、経営・財務コンサルティングなどを行っています。



業績

投資銀行事業が好調を維持。メツツアの損益も改善し、増収増益。

(単位：百万円)

	2021/9期	2022/9期	増減額	増減率
売上高	8,107	9,301	+1,194	+14.7%
売上総利益	3,370	3,990	+619	+18.4%
営業利益	178	587	+409	+230.0%
経常利益	115	540	+425	+366.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	130	176	+45	+34.6%
償却前営業利益	817	1,153	+335	+41.1%

・ 償却前営業利益 = 営業利益 + 売上原価 - 販管費に含まれる減価償却費及びのれん償却費

売上高

全事業セグメントが増収。

売上総利益

投資銀行事業の売上高増加、メツツアの原価低減により前期比18.4%増。

営業利益

販管費はメツツアの費用が減少したものの、他の事業は事業拡大に伴い6.6%増。
営業利益は売上総利益の増加により、230%の増益。

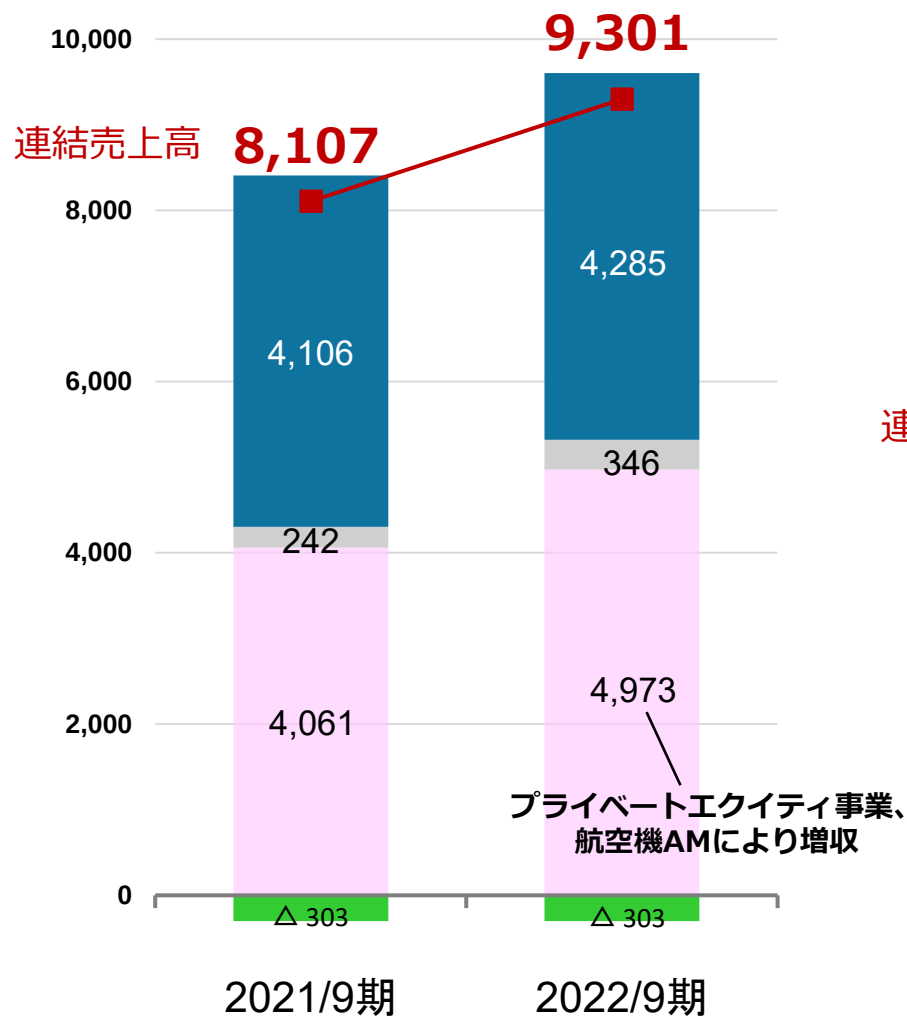
親会社株主に帰属する 当期純利益

ムーミン物語の損失減少等により非支配株主に帰属する当期純損益が前期比358百万円改善した結果、親会社株主に帰属する当期純利益に対しマイナスの影響が発生したが、34.6%の増益。

セグメント別業績

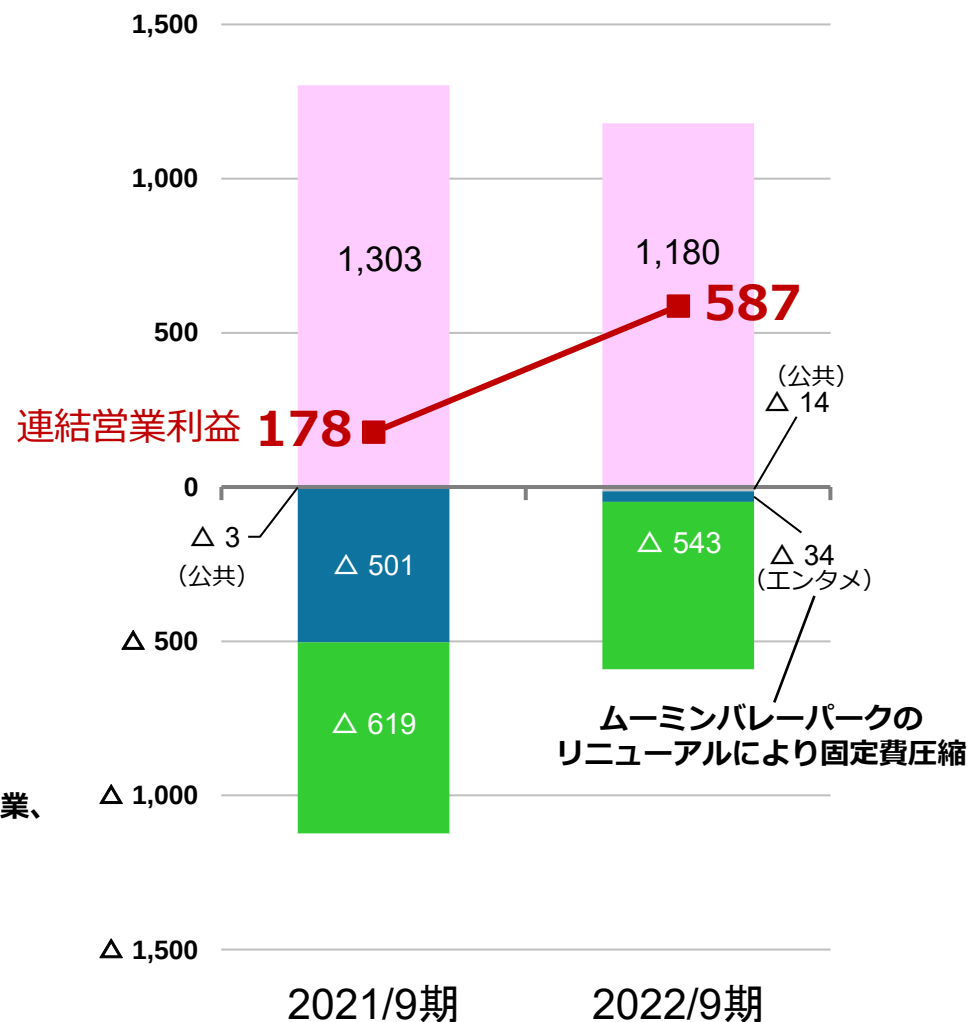
売上高

(百万円)



営業利益

(百万円)



投資銀行事業

公共コンサルティング事業

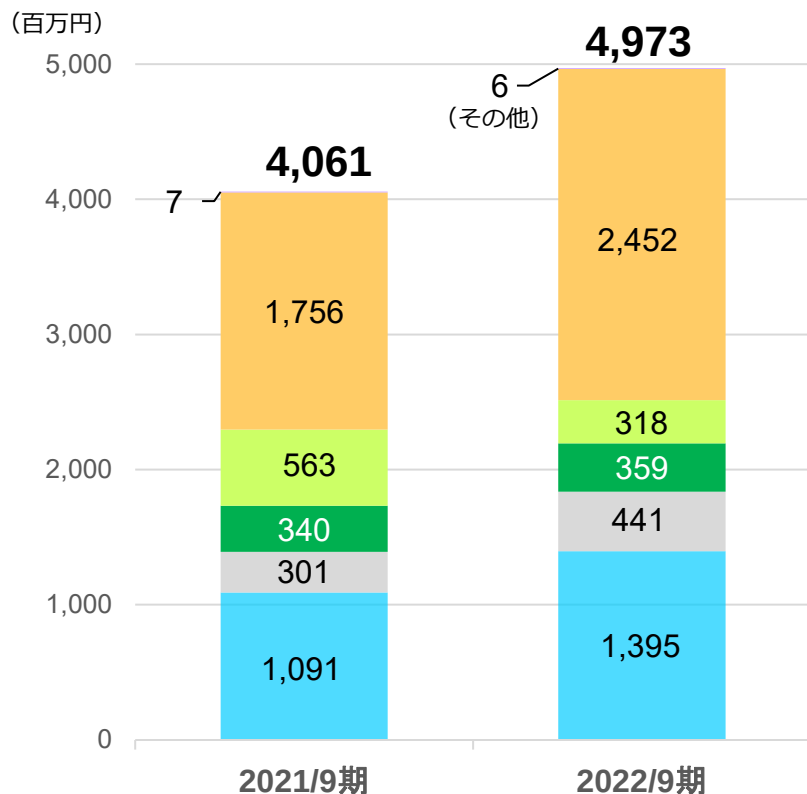
エンタテインメント・サービス事業

全社費用または取引消去

投資銀行事業セグメント 業務別収益

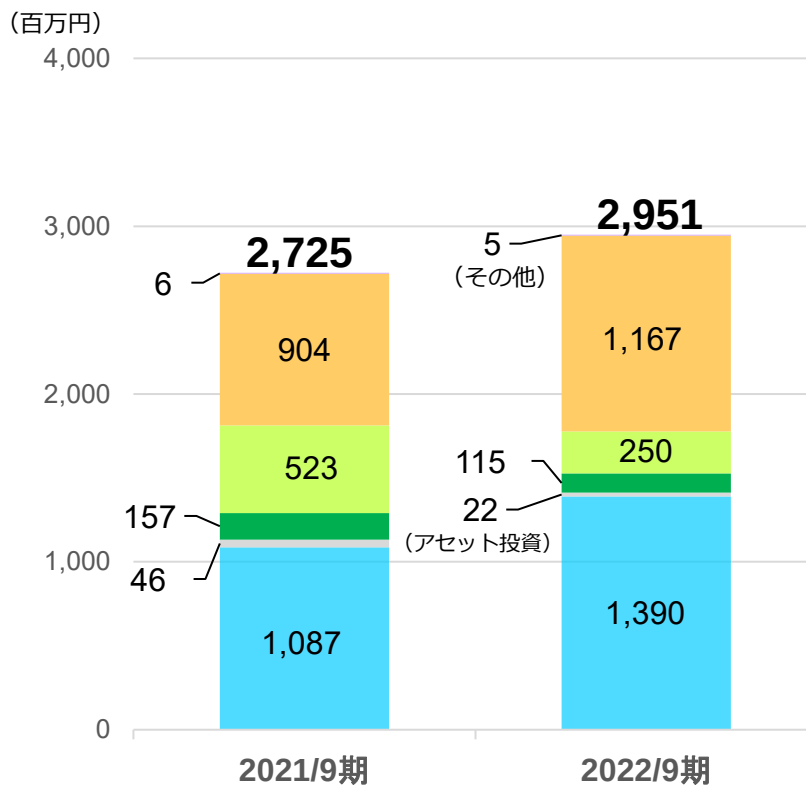
プライベートエクイティ事業により「業務受託+プライベートエクイティ投資」合計の売上高が増加。
航空機アセットマネジメントも好調。

売上高



912百万円増 (22.5%増)

売上総利益



225百万円増 (8.3%増)

- 業務受託 (アレンジ、アセットマネジメント等)
- アセット投資
- メツツアビレッジ
- プライベートエクイティ投資
- 航空機アセットマネジメント
- その他

(注) 報告セグメント間の内部売上高を、
消去しない数値を使用。

今後の見通し

2023年9月期 連結業績予想

**プライベートエクイティ投資関連を更に加速。
ライセンス事業子会社が連結除外となるが、増収増益を見込む。**

(単位：百万円)	2022/9期実績	2023/9期予想	増減額	増減率
売上高	9,301	10,100	+798	+8.6%
営業利益	587	1,400	+812	+138.2%
経常利益	540	1,400	+859	+158.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	176	1,000	+823	+467.8%

投資銀行事業

- ・プライベートエクイティ投資関連の収益拡大により、当該セグメントは大幅な増収・増益を見込む。
- ・海外投資家の不動産投資やESG投資のニーズを捉え、アセットマネジメント受託資産（AUM）を積み上げてストック型の収益基盤を強化。期末のAUMは2022年9月末比50%増超を見込む。
- ・航空機AMは、コロナ禍の沈静化により機体検査需要は落ち着く可能性があるものの、航空機登録の増加や新規サービスの拡大が見込まれるため、増収を見込む。
（想定為替レート 1ユーロ:135円）
- ・事業拡大により、人件費や外部委託費などの増加を見込む。

公共コンサルティング事業

- ・財務書類作成支援、公共施設等総合管理計画の見直し支援業務の新規受託により増収。財務書類作成支援は、「県」など大規模自治体からの受託増を目指す。

エンタテインメント・サービス事業

- ・ムーミンバレーパークは、来園者数増による増収、損益改善を見込む。
季節ごとのイベント開催で更なる来園者数を狙う。
- ・(株)ライツ・アンド・ブランズを2023/9期から連結除外、持分法適用関連会社としたことで、ライセンス事業による損益は、当該セグメントでは計上せず、営業外損益で計上。
当該セグメントは減収となるが、最終利益への影響はない。

業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2023年9月期 連結業績予想（第2四半期 進捗状況）

通期業績予想の達成に向けて、順調に進捗

（単位：百万円）

	2022年9月期 Q2累計	2023年9月期 Q2累計	増減額	2023/9期 業績予想	業績予想 進捗率
売上高	4,421	4,530	+109	10,100	44.9%
営業利益	△39	645	+685	1,400	46.1%
経常利益	△51	628	+680	1,400	44.9%
親会社株主に帰属する 四半期（当期）純利益	△203	477	+680	1,000	47.7%

- ・ 事業承継のソリューションへの引き合いは続いており、**今後も順調な案件の組成**を見込む。
- ・ **新規投資も、順調に推移。**
買収ファンド組成額は第2四半期累計で134億円。前年通期実績の89%まで進捗。
第3四半期から次期において回収を見込む。
- ・ 第3四半期（2023年4－6月期）には、事業承継案件の投資回収・業務受託により**5億円の売上高・営業利益・経常利益**を計上予定。

- ・ 2023/9期は、減資と当期純利益（単体）により
分配可能額が確保される見込み
- ・ プライベートエクイティ投資関連の成長が著しく、
案件増加に対応する資金確保が課題
- ・ **現時点で、期末の配当予想は未定**

参考資料

連結貸借対照表 (2023年9月期第2四半期末)

資産の部

22年9月期 23年9月期 増減
第2四半期

流動資産	11,022,806	11,240,986	218,180
現金及び預金	2,375,927	1,747,229	△ 628,697
1 受取手形・売掛金・契約資産	1,113,702	1,073,142	△ 40,560
2 営業投資有価証券	2,482,469	3,303,117	820,648
営業貸付金	371,665	353,265	△ 18,400
販売用不動産	4,057,167	4,057,167	—
商品	133,602	134,539	937
その他	593,045	677,494	84,449
貸倒引当金	△ 104,772	△ 104,969	△ 196
固定資産	6,910,204	7,100,500	190,295
有形固定資産	5,878,784	5,704,807	△ 173,977
3 無形固定資産	632,501	147,054	△ 485,447
4 投資その他の資産	398,918	1,248,638	849,719
資産合計	17,933,011	18,341,487	408,475

- 1 RBJの連結除外によりライセンス収入の売掛金がなくなったものの、公共コンサルティング事業による売掛金が増加した結果、前期末並みの残高となる。
- 2 新規投資の実行や、事業承継案件のファンドが投資回収に至ってファンドの価値が向上したことにより増加。
- 3 アニメ放映権を保有するRBJの連結除外により減少。
- 4 RBJの連結除外（持分法適用関連会社化）、及び㈱トリニティジャパンの新規連結により増加。
- 5 公共コンサルティング事業及び航空機アセットマネジメントの外部委託による買掛金が増加。
- 6 長期借入金からの振替により増加。
- 7 不動産小口化商品を組成したSPCの借入返済や1年内返済予定の長期借入金への振替により減少。
- 8 2022年12月開催の定時株主総会決議により、減資、欠損填補を行う。
- 9 ㈱トリニティジャパンを新規連結したものの、RBJの連結除外により減少。

負債の部

(単位：千円)

22年9月期 23年9月期 増減
第2四半期

流動負債	2,587,825	2,640,922	53,096
5 支払手形・買掛金	248,274	448,887	200,613
短期借入金	—	52,500	52,500
6 1年内返済予定の長期借入金	529,252	756,067	226,815
未払法人税等	133,150	116,079	△ 17,070
リース債務	260,095	256,075	△ 4,019
賞与引当金	191,888	179,888	△ 12,000
その他	1,225,164	831,423	△ 393,741
固定負債	7,502,492	7,449,010	△ 53,482
7 長期借入金	7,184,342	6,849,561	△ 334,780
リース債務	158,022	73,555	△ 84,467
繰延税金負債	19,737	106,460	86,723
退職給付に係る負債	110,067	119,370	9,302
その他	30,322	300,062	269,739
負債合計	10,090,317	10,089,932	△ 385

純資産の部

株主資本	6,524,040	7,001,949	477,908
8 資本金	6,471,266	5,372,574	△ 1,098,692
資本剰余金	4,996,716	960,465	△ 4,036,250
利益剰余金	△ 4,943,941	668,910	5,612,851
自己株式	△ 0	△ 0	—
その他の包括利益累計額	61,839	78,499	16,660
新株予約権	56,359	74,387	18,027
9 非支配株主持分	1,200,454	1,096,717	△ 103,736
純資産合計	7,842,693	8,251,554	408,860
負債純資産合計	17,933,011	18,341,487	408,475

連結損益計算書（2023年9月期第2四半期累計）

		2022年9月期 第2四半期累計	売上比	2023年9月期 第2四半期累計	売上比	増減額	増減率 (単位：千円)
売上高	1	4,421,191	100.0%	4,530,710	100.0%	109,518	2.5%
売上原価	2	2,811,670	63.6%	2,149,152	47.4%	△ 662,518	△ 23.6%
売上総利益		1,609,521	36.4%	2,381,557	52.6%	772,036	48.0%
販売費及び一般管理費	3	1,649,476	37.3%	1,735,569	38.3%	86,093	5.2%
営業利益又は営業損失（△）		△ 39,955	△ 0.9%	645,988	14.3%	685,943	—
営業外収益		58,957	1.3%	71,852	1.6%	12,895	21.9%
営業外費用		70,804	1.6%	89,460	2.0%	18,655	26.3%
経常利益又は経常損失（△）		△ 51,802	△ 1.2%	628,380	13.9%	680,183	—
特別利益		15,691	0.4%	190,394	4.2%	174,703	1,113.4%
特別損失		1,362	0.0%	32,369	0.7%	31,006	2,276.2%
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失（△）		△ 37,473	△ 0.8%	786,406	17.4%	823,879	—
法人税等合計		42,909	1.0%	146,439	3.2%	103,529	241.3%
四半期純利益又は四半期純損失（△）		△ 80,383	△ 1.8%	639,967	14.1%	720,350	—
非支配株主に帰属する四半期純利益		122,724	2.8%	162,534	3.6%	39,810	32.4%
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失（△）		△ 203,107	△ 4.6%	477,432	10.5%	680,540	—

1 (株)ライツ・アンド・ブランズ（RBJ）が連結除外されるも、PE事業における事業承継案件や航空機AMの売上高が増加。

2 主にRBJの連結除外により減少。原価率は前年同期から16.2ポイント減の47.4%となる。

3 RBJの連結除外に加えメツァで費用を削減したものの、その他の事業は事業拡大のための人員増強や外部委託が増加したことにより、前年同期比5.2%増。

4 持分法による投資利益41百万円を計上。

5 (株)トリニティジャパンの連結子会社化に伴う負ののれん発生益190百万円を計上。

連結キャッシュ・フロー計算書 (2023年9月期第2四半期累計)

(単位：千円)

	22年9月期 第2四半期累計	23年9月期 第2四半期累計	増減額
営業キャッシュフロー	293,113	1 194,935	△ 488,048
税引前四半期純利益	△ 37,473	786,406	823,879
減価償却費	292,514	223,345	△ 69,169
支払利息	59,120	64,973	5,852
負ののれん発生益	—	△ 190,025	△ 190,025
売上債権の増減	△ 494,203	△ 151,812	342,391
営業投資有価証券の増減	293,375	1 △ 782,809	△ 1,076,185
営業貸付金の増減	36,850	18,400	△ 18,450
棚卸資産の増減	81,902	△ 46,089	△ 127,991
仕入債務の増減	240,342	202,176	△ 38,165
その他	△ 179,315	△ 319,498	△ 140,183
投資キャッシュフロー	△ 84,771	77,634	162,406
固定資産支出	△ 73,866	△ 57,488	16,377
連結範囲変更を伴う 子会社株式取得による収入	—	2 280,137	280,137
関係会社株式取得による支出	—	△ 138,043	△ 138,043
その他	△ 10,905	△ 6,971	3,933

	22年9月期 第2四半期累計	23年9月期 第2四半期累計	増減額
財務キャッシュフロー	△ 311,757	△ 163,092	148,665
短期借入金の増減	△ 98,000	52,500	150,500
長期借入れによる収入	20,550	219,500	198,950
長期借入金の返済	△ 21,368	△ 227,465	△ 206,097
非支配株主への配当金支払	△ 99,011	△ 109,912	△ 10,900
ファイナンス・リース債務の返済	△ 114,198	△ 98,001	16,197
その他	270	286	16

現金等の換算差額	△ 2,006	△ 3,772	△ 1,766
現金等の増減額	△ 105,422	△ 284,165	△ 178,742
現金等の期首残高	2,379,230	2,375,927	△ 3,303
連結除外に伴う現金等の減少	—	3 △ 394,532	△ 394,532
現金等の期末残高	2,273,808	1,697,229	△ 576,578

1

事業承継案件へ投資により営業投資有価証券が増加。
営業活動によるキャッシュフローはマイナスとなる。

2

(株)トリニティジャパンの連結子会社化により同社のキャッシュを取り込む。

3

(株)ライツ・アンド・ブランズ (RBJ) の連結除外による減少。

免責条項

本資料は、当社およびFGIグループに関する情報の提供を目的としたものであり、有価証券にかかる売買、金融商品取引に係る契約等いかなる商品の勧誘をするものではありません。

本資料に記載されている、各種資料・文書には、当社またはFGIグループに関連する見通し、方針、経営戦略、目標、予定、事実の認識・評価などといった、将来に関する記述をはじめとする歴史的事実以外の事実を記載しているものが含まれていることがあります。これらの歴史的事実以外の事実（以下、「将来情報」ということがあります）の記載は、当社またはFGIグループが入手した情報に基づく、当該資料・文書の日付（または当該資料・文書に別途明示された日付）時点における予測、期待、想定、認識、評価等を基礎として記載されているに過ぎません。また、見通し・目標等を策定するためには、過去に確定し正確に認識された事実以外に、見通し・目標設定等を行うために不可欠となる一定の前提（仮定）を使用しています。これらの記述ないし事実または前提（仮定）については、その性質上、客観的に正確であるという保証も将来その通りに実現するという保証もありません。したがって、これらの記述ないし事実または前提（仮定）が、客観的に不正確であり、将来実現しないという可能性があります。その原因となりうるリスクや要因は多数あります。将来情報は、将来発生する事象、リスク、不確実性を内包する要因を含んでおり、そうした前提は、当社またはFGIグループの実際の業務・業績に著しい悪影響を及ぼす可能性があります。かかる要因には、日本国、米国、アジアあるいはその他の国・地域における経済状況の悪化、不動産価値または株価の下落、FGIグループの貸出先の産業分野における企業破綻の増加やその他問題の発生、当社の経営統合およびコスト削減期待の実現の困難化または遅延、競争の激化、FGIグループの業務に関わる法令規則の改正、FGIグループにとって不利益となる日本国経済その他の政策の変更が含まれます。

なお、将来情報に関する記述を含む資料・文書が本資料に記載されている間においても、当該将来情報は上記のとおり当該資料・文書の日付（またはそこに別途明記された日付）時点のものであり、当社は、それらの情報を最新のものに随時更新するという義務も方針も有しておりません。

FGI

FinTech Global Incorporated

The firm of innovative financing

フィンテック グローバル株式会社

<https://www.fgi.co.jp/>